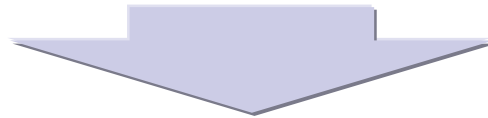




統合ID管理システム構築の落とし穴

トップ、役員の説得ができないため予算承認がされない

- なぜ、来年でなく今必要？
- 他に優先的に行わなければならないことはない？
- それを作るといくら儲かる？



- ✓ リスク分析ができていない
- ✓ リスクを軽減するための対策・実施計画ができていない
- ✓ 対策に対する想定効果が提示できていない

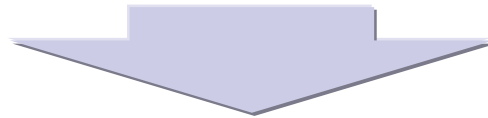
統合ID管理システム構築の前に、セキュリティインフラ計画策定が必要！



統合ID管理システム構築の落とし穴

ポリシー決めや業務要件定義をしないで設計に入る

- 設計・構築時に後戻りが発生し、想像以上の時間がかかる
- システム改訂、保守地獄になる



✓ **ポリシー(原則・ルール)を決めて、軸を明確にする必要がある**

- ・ 目的、範囲、登録するデータ、連携するシステム
- ・ コード標準化も重要

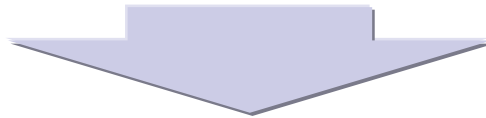
このフェーズで、成功・失敗の8割が決まる！



統合ID管理システム構築の落とし穴

ツール先行型で作ってしまう

- あるべき姿や必要な機能が実現できず、システム構築の目的が達成できない
- 無理なカスタマイズを実施して、期間と費用が膨れてしまう
- あるいは、そのために安易に妥協してしまう



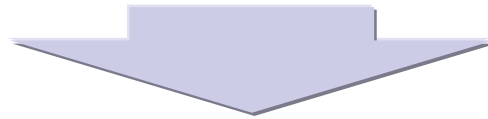
✓ 要件定義を先に行って、
その要件を満たすためのFIT & GAPを行うことが重要！



統合ID管理システム構築の落とし穴

展開を考慮せずに要件定義、設計を行う

- 作ったは良いが、各システムが利用してくれない
- 関係部門との調整に失敗して、データをもらえない



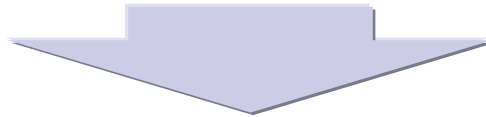
✓利用者や利用システムにとっての
「飴」を考慮に入れた展開計画ができていない！



統合ID管理システム構築の落とし穴

アクセス制御の集中管理を過度に期待する

- ガチガチのアクセス権の設定で、運用が回らなくなってしまう
- 業務を回すために無理にアクセス権を与えているが故に、インフォーマルシステム(運用でカバー)が出来上がる
 - IDを各システムで登録する
 - 本来のID体系/属性と別のID体系で登録する
例: 派遣者なのに社員として登録する、など
 - 本来の目的であるID管理ができなくなる。



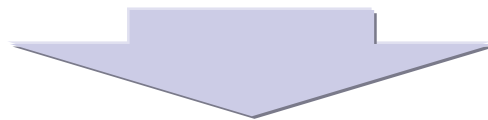
✓ まずはID管理の統合から実施して、あまり欲張らないことが重要！
アクセス権管理は統合ID管理システムの見直しの際に検討すべき。



統合ID管理システム構築の落とし穴

LDAPサーバにこだわる

- IT全般統制の考え方で行くと、
LDAPサーバを立てて認証の集中をすることはそれほど重要でない
- IDのライフサイクル管理を集中することの方が重要
- 既存のActive Directoryと機能がかぶり説明に窮する



✓ まずはプロビジョニング構築から。
LDAPサーバはADとの住み分けを考えて構築すべきか考える！

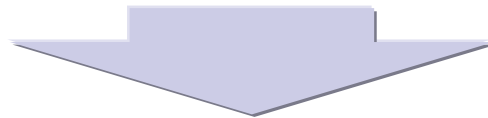
ActiveDirectoryは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。



統合ID管理システム構築の落とし穴

SSO (シングルサインオン) ツールの導入からはじめる

- ユーザ見えから考えて (Webの) SSOツールの導入からはじめてしまう
- IDのライフサイクル管理やActive Directoryとの棲み分けを考えず作ることが多く、運用負荷の増大、機能のダブリが発生する



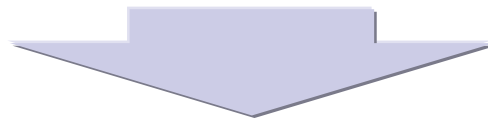
✓ SSOの導入の前にプロビジョニング構築を検討すべき。
SSOはその後で実現。



統合ID管理システム構築の落とし穴

汎銀河統合ID管理システムを作る

- 人にかかわるデータすべてを登録する
- 種々のマスタ管理を行う
- すべてのアクセス権を管理する
- 全世界のユーザIDの採番を一元管理して、入社してから退職するまで同じ番号でつくる
- すべての人事イベントを網羅するためシステム化する



✓ 運用が回らなくなる！ 割りきりが重要。